

## 研修記録用紙記入の手引き(臨床遺伝専門医認定試験用)

### 1. 認定研修施設に在籍する医師の場合

提出書類：様式1-2-4、様式1-2-6、様式1-2-7、様式1-2-8

- (1) 認定研修施設名、認定研修施設における指導責任医名、研修期間(様式1-2-4)
- (2) 研修施設における研修内容(到達目標に記載されている能力を獲得するためにどのような指導を受けたのかを具体的に記載すること)(様式1-2-4)
- (3) 参加した人類遺伝学会学術集会あるいは遺伝カウンセリング学会学術集会のリスト(大会名、大会長、期日、場所を記載し、参加証のコピーを貼付すること)(様式1-2-4)
- (4) 研修施設以外で行った研修(他施設で行った場合はその研修内容を記載、遺伝医学セミナー等の研修会に出席した場合は研修会名、期日、場所を記載し、参加証のコピーを貼付すること)(様式1-2-4)
- (5) 所属する施設で研修領域(周産期・小児期・成人期)を網羅できない場合は、ロールプレイ実習のある研修会に参加し、不足領域のロールプレイに1回以上参加すること(研修会名、期日、場所を記載し、参加証のコピーを添付すること)(様式1-2-4)
- (6) 臨床遺伝関連の論文または総説2編以上のリスト(研修期間外の論文も可)。著者全員の名前、タイトル、発表雑誌名、巻：頁一頁、西暦年を記載すること。臨床遺伝に関する学会発表を2回行った場合には、論文1編に代える事が可能(共同演者を含む)。この場合は発表者全員の名前、演題名、学会名、開催期日、場所を記載すること。なお、申請者名にはアンダーラインを引くこと(様式1-2-6)。
- (7) 症例要約(申請者が遺伝医療を行った20症例のリスト)(様式1-2-7)。そのうち5症例の詳細記を記載すること(様式1-2-8)。20症例のリストは診療内容がわかるようにそれぞれ100字程度で簡潔に記載し、5症例の詳細記は各症例について家系図を含め1症例につきA4用紙2枚程度に詳しく記載すること。ただし、5症例のうち、少なくとも3症例は申請者自身が遺伝カウンセリングを行った症例とする。症例リストおよび症例詳細記を記載した文書には指導責任医の署名・捺印が必須。幅広い研修を行ったことを示す症例を選択して記載すること。

### 2. 研修施設以外の施設に在籍する医師の場合

提出書類：様式1-2-5、様式1-2-6、様式1-2-7、様式1-2-8

- (1) 指導医名と指導医による研修内容(到達目標に記載されている能力を獲得するためにどのような指導を受けたのかを具体的に記載すること)(様式1-2-5)
- (2) 参加した人類遺伝学会学術集会あるいは遺伝カウンセリング学会学術集会のリスト(大会名、大会長、期日、場所を記載し、参加証のコピーを貼付すること)(様式1-2-5)
- (3) 参加したセミナーのリスト。対象セミナーは細則6条を参照。それぞれの獲得単位数とロールプレイ実習回数(研修会名、期日、場所を記載し、参加証等のコピーを貼付すること)(様式1-2-5)
- (4) 参加した委員会の定める遺伝カウンセリング研修プログラムのリスト(参加したことを証明するものを貼付すること)(様式1-2-5)
- (5) 臨床遺伝関連の論文または総説2編以上のリスト(研修期間外の論文も可)。著者全員の名前、タイトル、発表雑誌名、巻：頁一頁、西暦年を記載すること。臨床遺伝に関する学会発表を2回行った場合には、論文1編に代える事が可能(共同演者を含む)。この場合は発表者全員の名前、演題名、学会名、開催期日、場所を記載すること。なお、申請者名にはアンダーラインを引くこと(様式1-2-6)。
- (6) 症例要約(申請者が遺伝医療を行った20症例のリスト)(様式1-2-7)。そのうち5症例の詳細記を記載すること(様式1-2-8)。20症例のリストは診療内容がわかるようにそれぞれ100字程度で簡潔に記載し、5症例の詳細記は各症例について家系図を含め1症例につきA4用紙2枚程度に詳しく記載すること。ただし、5症例のうち、少なくとも3症例は申請者自身が遺伝カウンセリングを行った症例とする。症例リストおよび症例要約を記載した文書には指導医の署名・捺印が必須。幅広い研修を行ったことを示す症例を選択して記載すること。